

平成25年5月10日(金)

平成25年3月期 決算説明資料

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

Kaneka

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P.	5
• 連結貸借対照表	P.	12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	13
• 為替変動の影響	P.	14
• 海外売上高	P.	15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	16
• 業績予想	P.	17
• トピックス	P.	19

(平成25年3月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	24年3月期	25年3月期	増減額	25年3月期 前回予想
売上高	4,693	4,765	72	5,000
営業利益	132	158	27	200
経常利益	127	163	37	185
当期純利益	54	93	39	100
為替レート (円/US\$)	79.08円	82.91円		80円
為替レート (円/EUR)	109.02円	106.78円		105円
国産ナフサ (円/KL)	54,900円	57,600円		60,000円

◎ 売上高は前連結会計年度に対して+72億円・1.5%の増収となりました。

◎ 利益は前連結会計年度に対して営業利益で+27億円・20.2%、経常利益で+37億円・29.1%、当期純利益で+39億円・72.6%の、それぞれ増益となりました。

	24年3月期	25年3月期
・ 売上高営業利益率	2.8%	3.3%
・ 売上高経常利益率	2.7%	3.4%
・ 売上高当期純利益率	1.2%	2.0%
・ 1株当たり当期純利益	15.96円	27.68円
・ ROE	2.2%	3.7%
・ ROA	2.7%	3.4%

	24年3月期末	25年3月期末
・ 自己資本比率	53.0%	53.8%
・ 1株当たり純資産	734.61円	773.39円
・ 有利子負債	747億円	864億円
・ D/Eレシオ	0.30	0.33

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 20参照)

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高			営業利益		
	24年3月期	25年3月期	増減額	24年3月期	25年3月期	増減額
化成品	94,204	94,794	590	3,646	4,385	738
機能性樹脂	71,118	70,860	△258	6,162	6,205	42
発泡樹脂製品	57,590	58,143	553	4,377	3,975	△402
食品	131,111	132,223	1,112	5,308	5,292	△15
ライフサイエンス	46,996	47,132	135	8,428	9,644	1,216
エレクトロニクス	38,027	41,530	3,503	△4,269	△4,006	262
合成繊維、その他	30,240	31,777	1,536	1,722	4,408	2,685
調整額	—	—	—	△12,226	△14,094	△1,867
計	469,289	476,462	7,173	13,151	15,809	2,658

※当連結会計年度より、研究開発体制の一部を見直し、従来「エレクトロニクス」事業に区分しておりました研究開発費の一部を基礎的研究開発費として全社費用に含めております。なお、前連結会計年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

<単独・子会社別>

単独	266,859	268,496	1,636	1,239	4,948	3,709
国内子会社	278,952	280,926	1,974	9,407	8,747	△660
海外子会社	82,308	86,395	4,086	5,892	5,738	△153
消去	△158,831	△159,355	△524	△3,387	△3,624	△237
計	469,289	476,462	7,173	13,151	15,809	2,658

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 決算短信 【添付資料】 P. 2参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

・化成事業

塩化ビニール樹脂は、国内外の市況が低調に推移しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。か性ソーダは、国内需要が低調に推移し、販売数量が減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は94,794百万円と前連結会計年度と比べ590百万円(0.6%増)の増収となり、営業利益は4,385百万円と前連結会計年度と比べ738百万円(20.2%増)の増益となりました。

・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力しましたが、海外市場の需要低迷の影響を受けました。変成シリコンポリマーは、ユニークな品質特性への評価が高く、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は70,860百万円と前連結会計年度と比べ258百万円(0.4%減)の減収となりましたが、営業利益は6,205百万円と前連結会計年度と比べ42百万円(0.7%増)の増益となりました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂、押出發泡ポリスチレンボードは、関係会社再編などの経営の効率化に努めましたが、原料価格高騰の影響を受けました。ビーズ法発泡ポリオレフィンには、東日本大震災やタイの洪水災害によって停滞したサプライチェーンの回復などを背景に販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は58,143百万円と前連結会計年度と比べ553百万円(1.0%増)の増収となりましたが、営業利益は3,975百万円と前連結会計年度と比べ402百万円(9.2%減)の減益となりました。

・食品事業

食品は、消費者の低価格品志向が一層強まる中で、ニーズを先取りした新製品の拡販やコストダウンに注力したものの、販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は132,223百万円と前連結会計年度と比べ1,112百万円(0.8%増)の増収となりましたが、営業利益は5,292百万円と前連結会計年度並みとなりました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 決算短信 【添付資料】 P. 3参照)

・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業が公定価格の引下げの影響を受けましたが安定的に業績は拡大しました。医薬バルク・中間体は競合が更に激しさを増しているものの、機能性食品素材は還元型コエンザイムQ10のサプリメントとしての認知が進み、販売数量が国内外ともに前連結会計年度を上回りました。

以上の結果、当セグメントの売上高は47,132百万円と前連結会計年度と比べ135百万円(0.3%増)の増収となり、営業利益は9,644百万円と前連結会計年度と比べ1,216百万円(14.4%増)の増益となりました。

・エレクトロニクス事業

超耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料は、需要が拡大しているエレクトロニクス製品市場で新製品のラインアップや新規案件の採用などR&D活動の強化により販売数量が前連結会計年度を上回りました。太陽電池は、国内住宅市場における美観と性能を併せ持つ極めてユニークな建材製品としての市場認知が進み、販売が拡大するとともに徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材は販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は41,530百万円と前連結会計年度と比べ3,503百万円(9.2%増)の増収となり、営業損失は4,006百万円と前連結会計年度に比べ損失が縮小しました。

事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

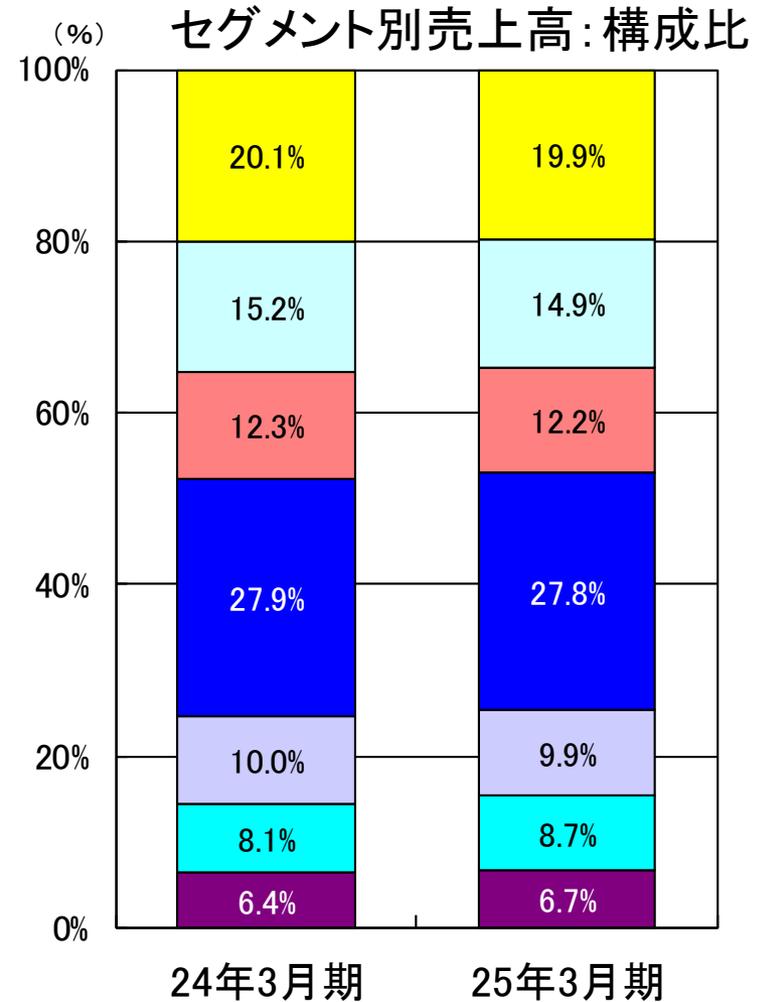
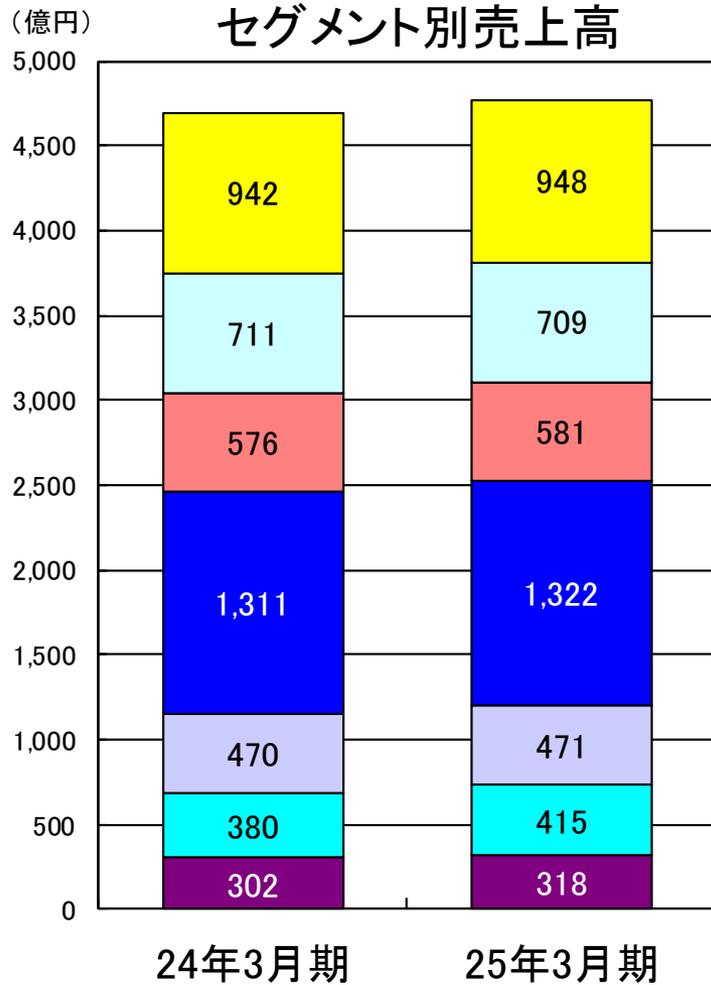
(平成25年3月期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

・合成繊維、その他事業

合成繊維は、高付加価値品の拡販、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は31,777百万円と前連結会計年度と比べ1,536百万円(5.1%増)の増収となり、営業利益は4,408百万円と前連結会計年度と比べ2,685百万円(155.9%増)の増益となりました。

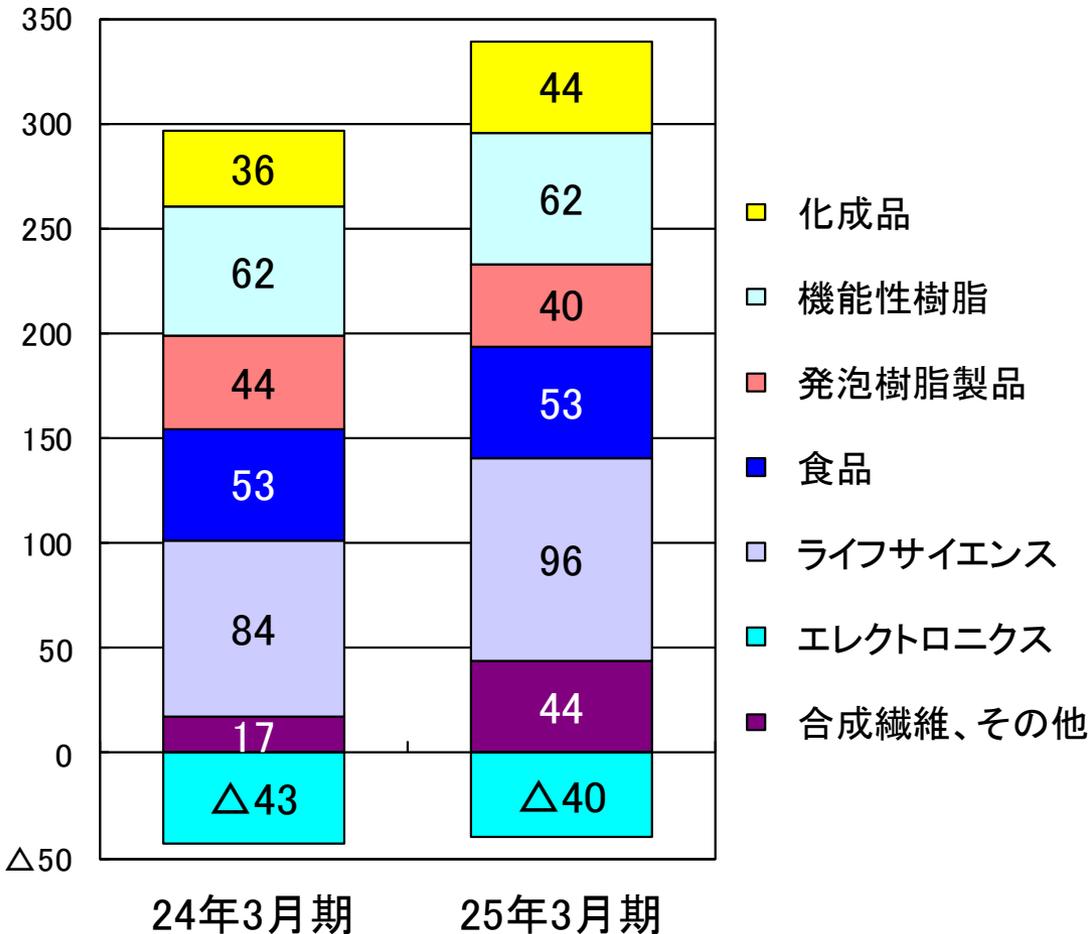
事業セグメント別売上高



事業セグメント別 営業利益

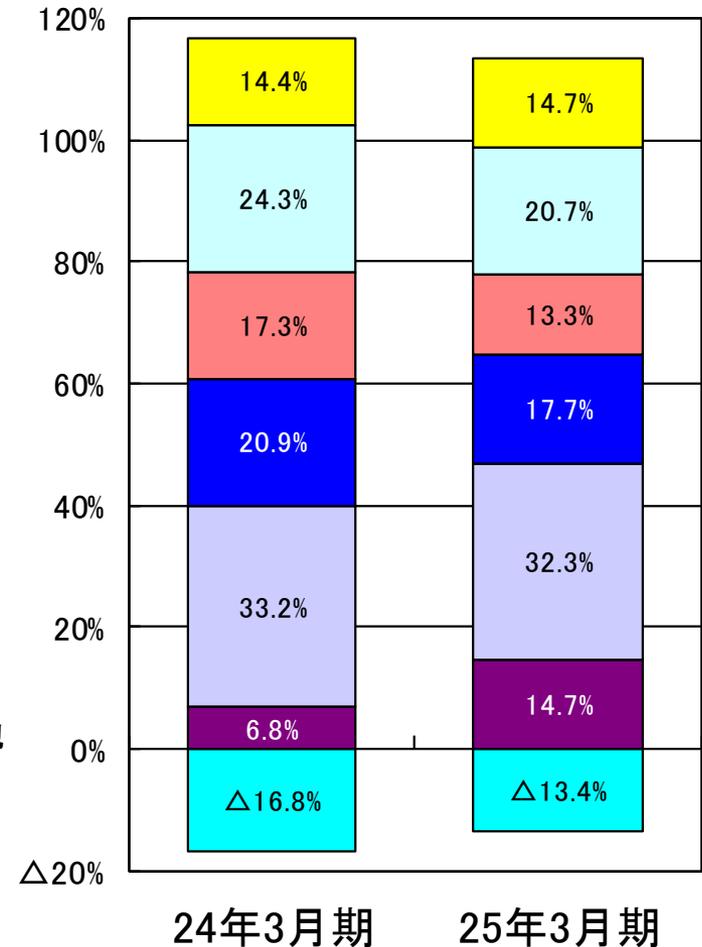
セグメント別営業利益

(億円)



セグメント別営業利益：構成比

(%)



(平成25年3月期 決算短信【添付資料】P. 7・8参照)

(単位：億円)

		24年3月期末	25年3月期末	増減額
資産	流動資産	2,360	2,429	68
	固定資産等	2,311	2,416	105
	合計	4,671	4,845	174
負債	有利子負債	747	864	118
	その他	1,349	1,276	△74
	合計	2,096	2,140	44
純資産	自己資本	2,475	2,606	131
	少数株主持分 他	99	99	△1
	合計	2,575	2,704	130
負債、純資産 合計		4,671	4,845	174
D/Eレシオ		0.30	0.33	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、有形固定資産や株価の上昇に伴う投資有価証券の増加等により前連結会計年度末に比べて174億円増の4,845億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は118億円増加し864億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金及び為替換算調整勘定の増加などにより、130億円増の2,704億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成25年3月期 決算短信【添付資料】P. 14・15参照)

(単位：億円)

	24年3月期	25年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	328	169
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 281	△ 329	△ 49
フリー・キャッシュ・フロー	△ 122	△ 2	121
財務活動によるキャッシュ・フロー	20	38	17
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 98	46	144
現金及び現金同等物の期末残高	272	317	46

- ◎ 当連結会計年度における営業活動による資金の増加は、328億円となりました。その主な内容は、税金等調整前当期純利益149億円、減価償却費292億円等による資金の増加と、たな卸資産の増加額35億円、法人税等の支払額51億円等による資金の減少であります。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、329億円となりました。その主な内容は、有形固定資産の取得による支出318億円等であります。
- ◎ 財務活動による資金の収入は、38億円となりました。その主な内容は、借入による資金の増加99億円と、配当金の支払54億円による資金の減少であります。
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、317億円となりました。

【期中平均レート】

(単位:円)

	24年3月期	25年3月期
米ドル	79.08	82.91
ユーロ	109.02	106.78

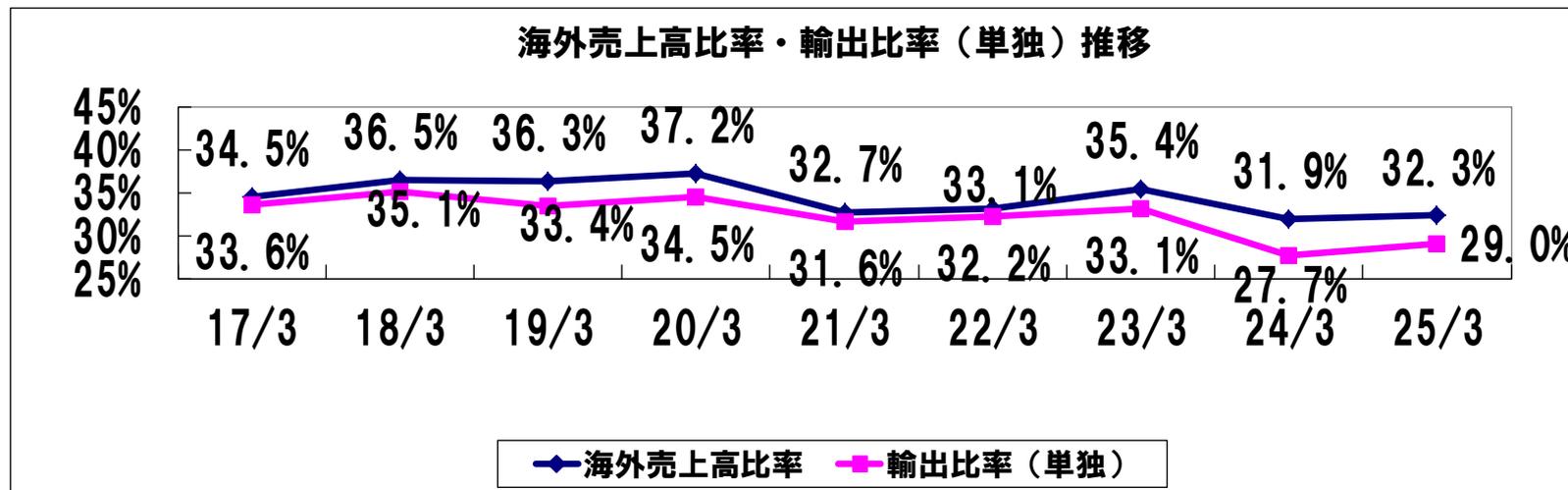
【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	35	10
ユーロ	△9	△2
その他	7	0
合計	33	8

◎ 為替は対ドルでは円安となりましたが、対ユーロでは円高となり、合計では米ドル高の影響がユーロ安の影響を上回り、前連結会計年度に対して売上高で+33億円、営業利益で+8億円の影響を受けました。

(平成25年3月期 決算短信【添付資料】P. 4参照)



(単位：億円)

	24年3月期	25年3月期	増減額	増減率
アジア	627	681	54	+8.6%
北米	282	288	6	+2.2%
欧州	424	410	△ 13	△3.2%
その他	162	160	△ 3	△1.8%
海外売上高計 (海外売上高比率)	1,495 (31.9%)	1,539 (32.3%)	44	+3.0%

◎ 海外売上高は海外での販売の増加に加え、円高の修正もあり1,539億円と前連結会計年度に比べて増加しました。なお、海外売上高比率は32.3%となり前連結会計年度の31.9%を上回りました。

設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	24年3月期 実績	25年3月期 実績	26年3月期 予想
設備投資	331	299	400
減価償却費	294	289	230
研究開発費	200	214	230

- 平成25年4月より有形固定資産の減価償却方法を定額法に統一しております。
この変更により従来の方法に比べて減価償却費が約60億円減少する見込みであり、
上記の平成26年3月期の減価償却費の予想には当該変更による影響額を含んでおります。

○主な設備投資

(単位：億円)

平成25年3月期 実績		平成26年3月期 予想	
ホリミットフィルム生産設備新設(マレーシア)	25	ホリミットフィルム生産設備新設(マレーシア)	25
有機EL照明の開発用設備(日本)	7	自家発電設備リニューアル(日本)	19
塩ビペ-スト生産能力増強(マレーシア)	8	販売物流システム更新(日本)	19

(平成25年3月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)
(単位：億円)

	25年3月期実績		26年3月期予想		前年比(通期)	
	上期	通期	上期	通期	増減額	増減率
売上高	2,338	4,765	2,400	5,300	535	+11.2%
営業利益	74	158	120	300	142	+89.8%
経常利益	68	163	110	280	117	+71.3%
当期純利益	35	93	60	150	57	+60.9%

◎ 世界経済は、米国では景気回復の兆しがあるものの、欧州経済低迷の長期化懸念、中国・インドなどアジア諸国の成長ペース鈍化など、先行きの不確実性が引き続き大きい状況となっています。わが国経済は、足元で円高の修正が進んできており、新政権によって打ち出された経済政策などを背景に、事業環境の回復が期待されているものの、本格的な回復には不透明感が残る状況であります。このような経営環境の中、当社グループは、引き続き重点戦略分野への経営資源の投入、成長のドライビングフォースとなる新規事業の創出やグローバル展開を一層強化し、事業構造の変革に注力するとともに、既存事業においては、新製品の上市など販売数量増大のための施策及び競争力向上のための製造コストや経費の削減等の収益力回復策に徹底して取り組んでまいります。

【26年3月期：前提条件】 為替：90円/US\$、120円/EUR、国産ナフサ：62,000円/KL

・平成25年4月より有形固定資産の減価償却方法を定額法に統一しております。この変更により従来の方法に比べて減価償却費が約60億円減少する見込みであり、上記の営業利益には当該変更による損益影響額を含んでおります。

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【セグメント別】

(単位：億円)

	売上高		営業利益	
	26年3月期予想		26年3月期予想	
	上期	通期	上期	通期
化成品	475	1,000	25	55
機能性樹脂	360	830	38	85
発泡樹脂製品	290	600	20	45
食品	635	1,350	25	60
ライフサイエンス	220	580	50	110
エレクトロニクス	235	570	5	35
合成繊維、その他	185	370	32	60
調整額	—	—	△75	△150
合 計	2,400	5,300	120	300

【26年3月期：前提条件】

為替：90円/US\$、120円/EUR、国産ナフサ：62,000円/KL

- 平成25年4月より有形固定資産の減価償却方法を定額法に統一しております。この変更により従来の方法に比べて減価償却費が約60億円減少する見込みであり、上記の営業利益には当該変更による損益影響額を含んでおります。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- P T Aバルーンカテーテルに関する共同開発契約をテルモ株式会社と締結 — 4月25日
- CellEffic BM (間葉系幹細胞分離デバイス) の欧州医療機器承認および販売の開始 — 4月12日
- 医療機器事業の消化器領域 (内視鏡処置具) へ本格的に参入
— リバーグループの経営権を取得し研究開発を促進 — 4月5日
- ミラノサローネ 2013 出展のお知らせ
— テーマは有機 E L 照明の幻想的な空間 “ I n f u s e ” — 3月28日
- 健康成分情報ウェブサイト「健康カガク・ラボ」開設について — 3月28日
- 透析シャント用高耐圧 P T Aバルーンカテーテルの新グレードを開発
— 製品名を 35YOROI (サンゴヨロイ) とし、本年 3 月より販売開始 — 3月27日
- 高砂工業所における自家発電設備リニューアル — 3月19日
- 発泡ポリスチレン樹脂の価格修正について
— 4 月 1 日出荷分より、キログラム当たり汎用品 20 円の値上げ — 3月8日
- London Fashion Week にラストラスファーが登場 — 3月6日
- 国連 W F P 世界食糧計画への参加 — 3月1日
- カネカ太陽電池 新製品発売に関するお知らせ
— (防眩モジュール、及び同質支持瓦工法) — 2月22日

kaneka